

内海 康也（うつみ・やすなり）

1、プロフィール

戦後県詩壇に「夜のアンモナイト」で登場、以後詩集 6 編を出版。全国的にも現代詩人会員、「無限」新人賞などと評価される。詩誌「飾絵」主宰、諸誌の選者、詩教育でも活躍。

<生没>

1931(昭和 6)年 3 月 1 日 ~ 2024(令和 6)年 7 月 5 日

<代表作>

詩集『夜のアンモナイト』

詩集『青銅時代』

<青森との関わり>

樺太生まれ、弘前に定住。高校教員。大学時代詩を始め、詩人の会に関わり、詩壇の選者としても活躍。

2、作家解説

1931(昭和 6)年、樺太元泊郡知取町に生まれる。1943(昭和 18)年、上喜美国民学校卒業。翌年、弘前に移住し、1948(昭和 23)年、弘前中学校を卒業する。1953(昭和 28)年、弘前大学を卒業する。北津軽郡栄村、板柳町、弘前市の中学校勤務。1955(昭和 30)年、佐藤孝らと同人誌「羊眼」発行。1958(昭和 33)年、詩集『夜のアンモナイト』出版。1959(昭和 34)年、県詩人協会運営委員となる。また、一戸謙三らと弘前詩会を設立。1961(昭和 36)年、弘前実業高校に勤務、以後、高等学校勤務となる。1962(昭和 37)年、詩集『かげろうの唄』(思潮社)出版。1964(昭和 39)年、村野四郎推薦により、日本詩人会会員となる。宗左近、小海永二、石垣りんを知る。1966(昭和 41)年、作品「焰」により、「無限」新人推薦を受ける。同年、「地球」(復刊第 1 号)の同人となる。秋谷豊、新川和江、犬塚堯らを知る。1967(昭和 42)年、詩集『焰』(地球社)出版。1971(昭和 46)年、詩集『恐山

夢幻』(地球社)出版。1974(昭和 49)年、「地球」文芸講演会を弘前市で開催し、秋谷豊、新川和江、犬塚堯、磯村英樹、斎藤庸一、福井都生子らが参加した。1978(昭和 53)年、「東北詩人」創刊に同人として参加。1979(昭和 54)年、『現代詩の解釈と鑑賞事典』に上田敏、福士幸次郎らの担当として執筆した。1981(昭和 56)年、第 6 回青森県芸術文化報奨受賞。1982(昭和 57)年、詩集『青銅時代』(国文社)、『内海康也詩集』(現代詩人叢書 31、芸風書院)出版。1991(平成 3)年、「詩と思想」に連作「ペルソナ・シンドローム」4 篇を発表。1996(平成 8)年、詩集『マジック・ナンバー』(北の街社)出版。戦後処女詩で透明な形而上学的詩境で出発した内海は時間の詩人である。誕生と定住の違和感からくる異邦人意識が深層にあって、自他に対するアイロニーの世界を生む。「青銅時代」で座標軸を得たが、還暦以後の「ペルソナ」詩群は、あたらしい受肉の世界を描いた。2010(平成 22)年、『人格症候群(ペルソナ・シンドローム)』(土曜美術社出版販売)でよりメタフィジカルな方向性に舵を切り、2013(平成 25 年)、『地霊頌(ゲニウス・ロキしょう)』(土曜美術社出版販売)でこれに続くミュトス・シリーズの契機とした。

2024(令和 6)年 7 月 5 日、弘前市内の病院で死去。享年 93。